



北海道 その先の、道へ。  
Hokkaido. Expanding Horizons.

令和5年（2023年）5月

# 令和4年度国民参加による気候変動情報 収集・分析委託業務（北海道）調査結果 【スキー場編】

北海道環境生活部ゼロカーボン推進局気候変動対策課

北海道気候変動適応センター



## アンケート調査

回答数：62 / 92事業者

◆道内に存在するスキー場運営事業者に対し、スキー場の開設期間や雪の量、雪質等への影響について一斉アンケート調査を行った。

### 調査項目及び結果概要

#### ◆開設期間、積雪量、雪質の変化

- ◇調査内容  
昔に比した開設期間、積雪量、雪質の変化
- ◇結果概要  
開設期間は短くなっている、積雪量は減っている、雪質はパウダースノーが減って湿り雪、アイスバーンが増えているとの回答が多かった。

#### ◆冬季以外の運用状況

- ◇調査内容  
冬季以外の運用の有無、運用方法
- ◇結果概要  
運用を行っているスキー場は2割程度だった。運用方法としては秋季の観光ゴンドラ、キャンプ場などが挙げられた。

## ヒアリング調査

◆道内4地域（道央／道南／道北／道東）から1箇所ずつ選定し雪の量や雪質の変化についてヒアリングを実施（人工降雪機を導入している、冬季以外の活用を行っているなどの特徴にも着目）

#### ◆利用客の変化

- ◇調査内容  
訪れる客層（道内/国内/海外）、客数の変化
- ◇結果概要  
主にコロナの影響により、インバウンドが顕著に減少しているとの回答が多かった。

#### ◆運営対策の必要性

- ◇調査内容  
気候変動による雪の変化を踏まえた運営対策の必要性についての考え
- ◇結果概要  
7割程度の回答者が必要だと感じると回答した。また、対策の方法としては人工降雪機の導入が最も多く挙げられた。

#### ◆人工降雪機の導入状況

- ◇調査内容  
人工降雪機、人工造雪機などの導入状況
- ◇結果概要  
導入しているスキー場は2割程度だった。

#### ◆必要な支援

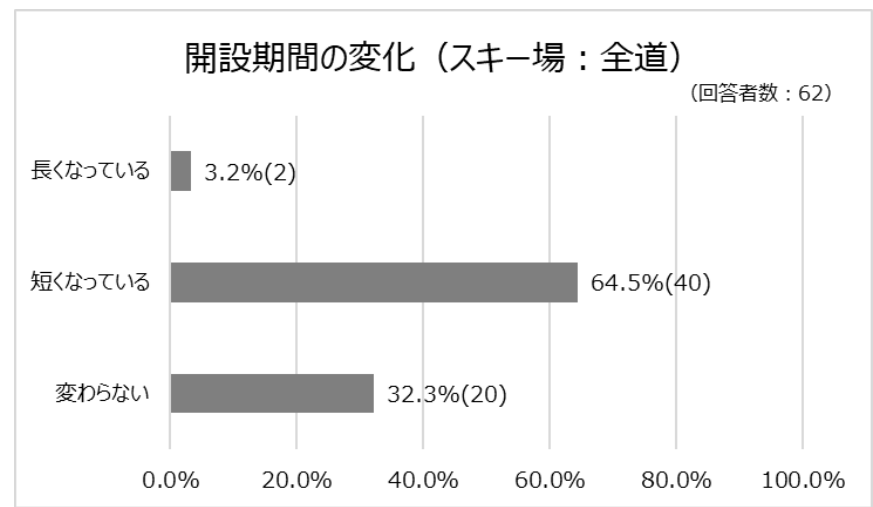
- ◇調査内容  
今後、気候変動影響への対策を検討・実施するために必要な支援
- ◇結果概要  
「対策に要する資金支援」が最も多かったが、どの選択肢も平均的に半数前後の回答者が選択した。

## 開設期間、積雪量、雪質の変化

**設問** 昔に比べ、【毎冬の開設期間/シーズンを通した雪の量/雪質】に変化はありますか。

### 結果（開設期間）

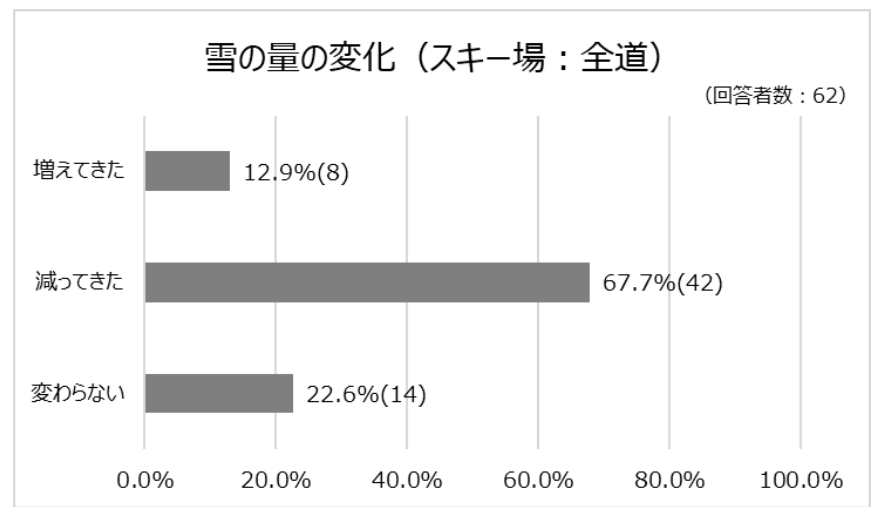
短くなっているとの回答が大半であり、長くなっていると回答した者はほぼいなかった。



- (自由記載 (抜粋))
- ・近年では積雪不足により、オープンを延期することが多い
  - ・初雪の時期的にはあまり変化を感じないが、根雪になる時期が遅れていると感じる
  - ・R 3年度シーズンは、例年と比較し大幅な積雪量増となり、過去5年間で最長の営業期間となった。
  - ・シーズン終了はあまりかわらないが、シーズンインが遅くなっている
  - ・2月の気温上昇(暖気)
  - ・開設前に人工降雪機で造成を行っているが、気温が下がらず作業に苦慮し営業開始が遅れている

### 結果（積雪量）

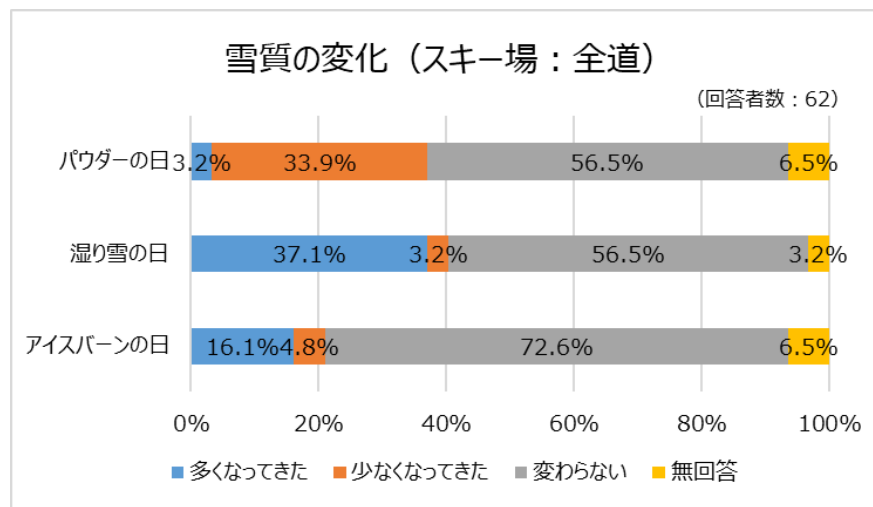
減ってきたとの回答が大半だが、増えてきたと回答した者も1割程度存在した。



- (自由記載 (抜粋))
- ・昨年は30年ぶりの大雪で、大雪によるクローズが2回。
  - ・12月・3月の降雪が少なくなってきたり、冬期に雨が降る日も昔より若干多い。
  - ・昨シーズンは多かったがそれまでは慢性的な雪不足が続いていた。
  - ・トータル的には降雪量が減っているが、想定以上の降雪がある年もあり運営に苦慮。
  - ・シーズン毎の積雪量のばらつきが顕著になってきている。
  - ・多い年少ない年の差が極端なことが増えた感じがする。(極端な大雪・極端な小雪暖冬等)
  - ・集中的、局所的な雪が多い。極端に多いか少ないか。

### 結果（雪質）

大半を占める「変わらない」との回答を除けばパウダースノーは減少し、対照に湿り雪やアイスバーンは多くなってきたとの回答が多かった。



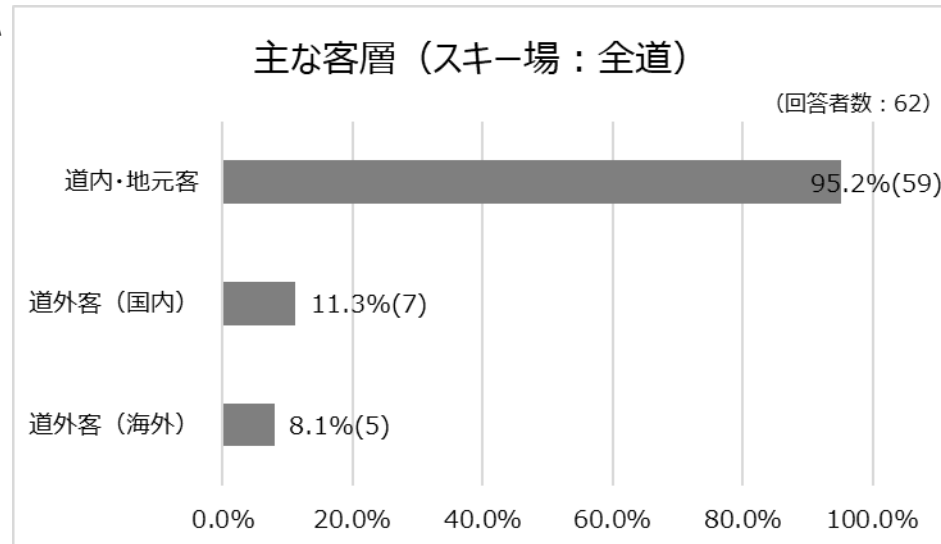
- (自由記載 (抜粋))
- ・1月・2月は以前と変わらないが、12月・3月の寒暖差が多くなっているように思える。
  - ・雨の降る回数が増えたと感じる
  - ・融雪時期が早まり、日中は湿雪(シャバ雪) 夜間はアイスバーンになる日が増加した。
  - ・上信越の雪質に似ている
  - ・年ごとに若干の違いはあるが大きくは変わらない

## 利用客の変化

**設問** 貴スキー場へ訪れるお客様はどのような層が多いですか。

**結果** 道内・地元客が最も多かった。

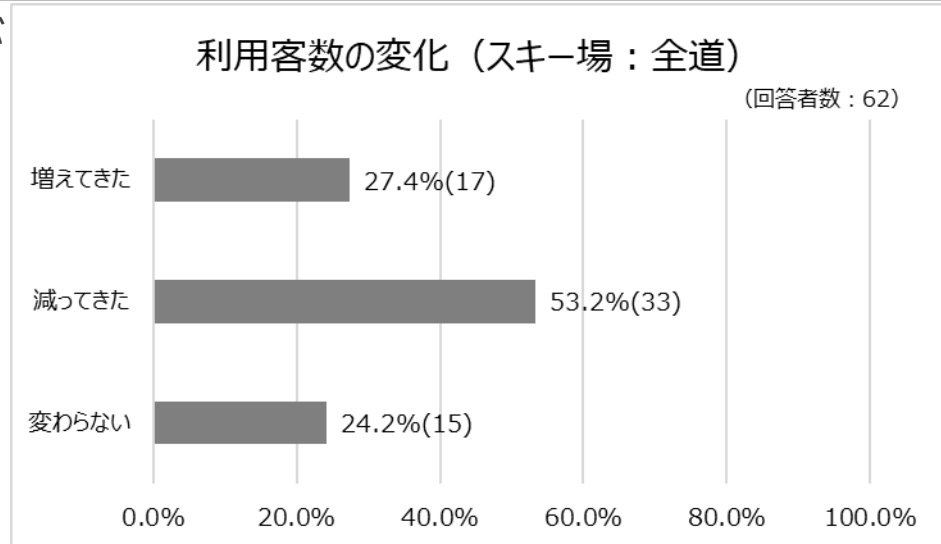
- (自由記載 (抜粋))
- ・コロナ前はインバウンドの割合も高かったが、現状ではファミリー層が多い。
  - ・高齢者が増えてきている。
  - ・家族、シニア世代、小学生、中学生
  - ・コロナ前は道外客 (国内、海外) が多かったが、現在は道内客が多い
  - ・リフト利用者は主に地元の方、CAT利用者は主に海外の方です。



**設問** 近年、利用客数の状況に変化はありますか。

**結果** 減ってきたとした回答者が多かった。

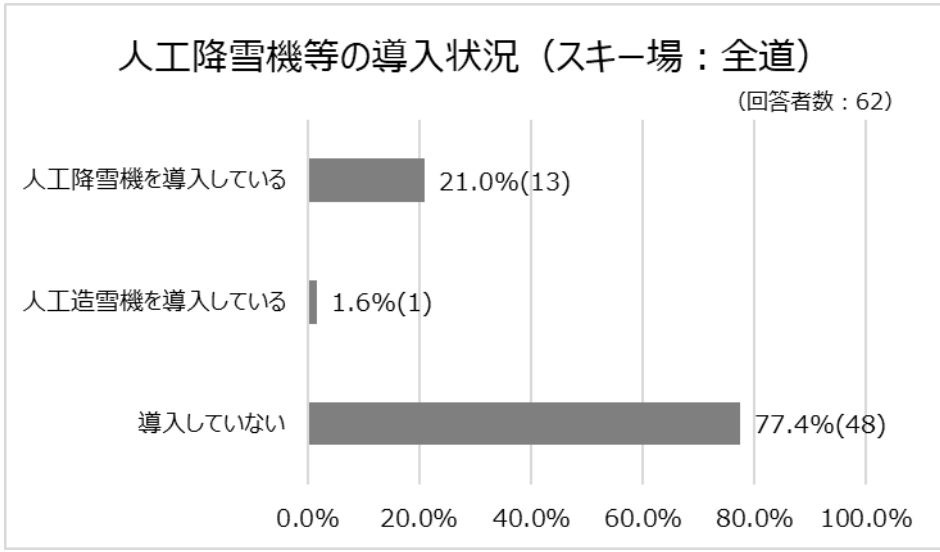
- (自由記載 (抜粋))
- ・コロナの影響でインバウンドが減少している
  - ・オープンが遅くなっている分利用者が減っている
  - ・増減があるが 雪不足によるスタートの遅れやゲレンデ状況悪化で減少する傾向が多い
  - ・ウィンタースポーツ離れの傾向が顕著。積雪量とは無関係と考えている。
  - ・新型コロナウイルス感染症によるアウトドアブームの影響で利用客増加



## 人工降雪機の導入状況

**設問** 貴スキー場では、人工降雪機等を導入していますか。

**結果** 導入しているスキー場は2割程度だった。



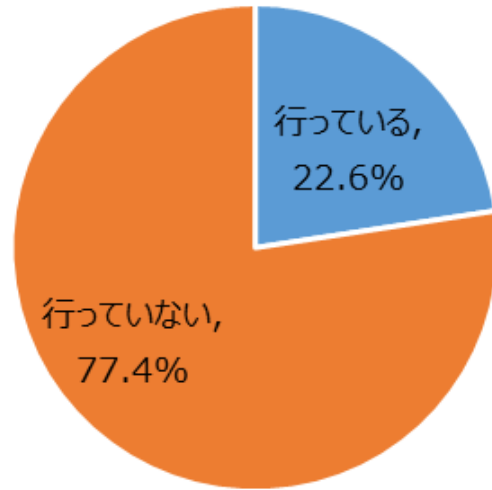
- (自由記載 (抜粋))
- ・小雪の対応策として有効な手段となっている。
  - ・一部急斜面の雪付け用として使用
  - ・気温が下がる時期や時間が短くなり効率的な作業が進まない場合がある。
  - ・費用、オペレーション、水の問題で導入できない。

## 冬季以外の運用状況

**設問** 貴スキー場では、冬期間以外の運用を行っていますか。

**結果** 行っているスキー場は2割程度だった。

冬季以外の運用状況（スキー場：全道）



(回答者数：62)

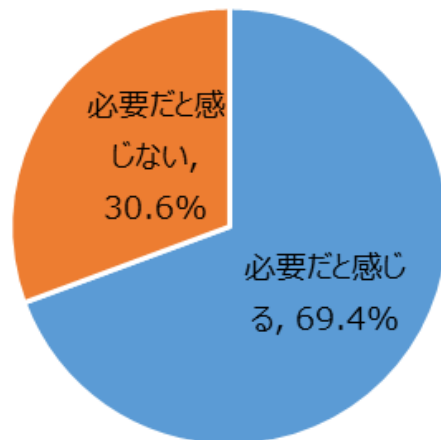
運用方法	冬季比客数 (%)
夏山リフト	300
ロープウェイでの夏期営業（観光）	120
ゴルフ場	70
4/29～ キャンプ場として11/31（末）まで営業	30
秋の20日間程度	15
キャンプ場、ジップラインとツリートレッキング、サマーゲレンデ、BBQ、マウンテンバイク、釣り堀、テニスコート等	12
観光ゴンドラ運行	10
パークゴルフ場	
5月～10月末 アクティビティ営業に、リフト運行をしています。	1
観光ゴンドラ	
夏期間のゴンドラ運行	0.3
夏季期間は景観整備事業として、スキー場斜面を活用し花の植栽を行っている。	
グラススキー営業、MTB大会誘致等、R4年度は10月8日より10月16日ゴンドラ試験運行予定です	0.03
今年から夏営業を開始した。	

## 運営対策の必要性

**設問** 気候変動による将来の降雪量変化予測を踏まえ、スキー場運営対策の必要があると感じますか。

**結果** 7割程度の回答者が必要だと感じると回答した。

## 運営対策の必要性（スキー場：全道）



（回答者数：62）

## 必要と感じる：理由（抜粋）

- ・降雪量に左右されないゲレンデの設置を検討中
- ・営業時間の検討（実施中）や、人工降雪機の効率的な運用。
- ・降雪量や降雪時期での影響は入込売上に影響する事はもちろん、スタート時期が遅れる事はスタッフ採用に大きく影響する事と想像する（人手不足）
- ・少しでも早くオープンさせたい。
- ・スキー客の減少に伴い、冬期間の観光に注力したい
- ・本町におけるスキー場の設置理由は、「町民の心身の健全な発達とスポーツ活動の普及振興」であり、町民の活動の場が減少傾向にあるため、対策は必要であると考え。
- ・安定した積雪量の確保が難しい
- ・営業期間の、施設管理、営業方法の見直しが必要。
- ・11月12月の気温が下がらないため、オープン時期が遅れる可能性がある。
- ・利用してもらうお客様を増やすため
- ・当スキー場、元々積雪が少なく近い将来降雪機は必須
- ・人工降雪機のあるゾーンとないゾーンがあり、特にないゾーンのシーズンインが極端に遅れる場合がある。
- ・開設時期の変更など効率的な利用者確保のための運営対策の検討
- ・施設の老朽化もあり、今後のスキー場の在り方について検討中。

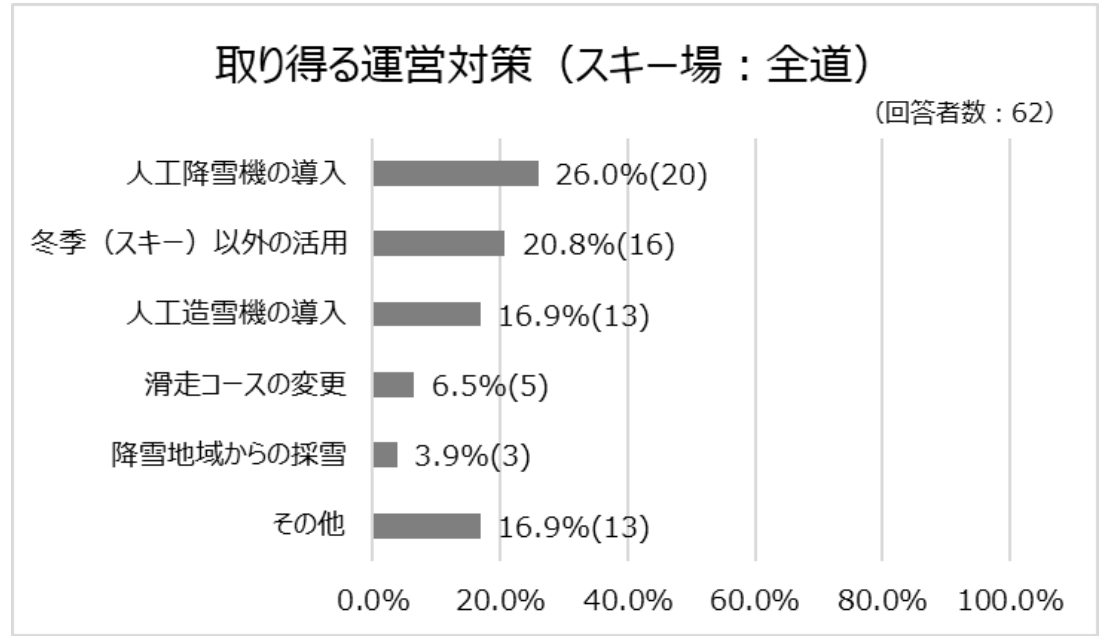
## 必要と感じない：理由（抜粋）

- ・現状においては、降雪量変化予測がどのようなものなのか全く予想できない状況である。今後の気候変動の状況により対応策についても考えていきたい。
- ・現在は必要はないと考えているが、降雪量が減っていく場合は営業期間の短縮等が必要である。

## 運営対策の必要性

**設問** 運営対策が必要だと感じている場合、どのような対策を取り得ると考えますか。

**結果** 「人工降雪機の導入」が最も多く、次いで「冬季（スキー）以外の活用」等が挙げられた。

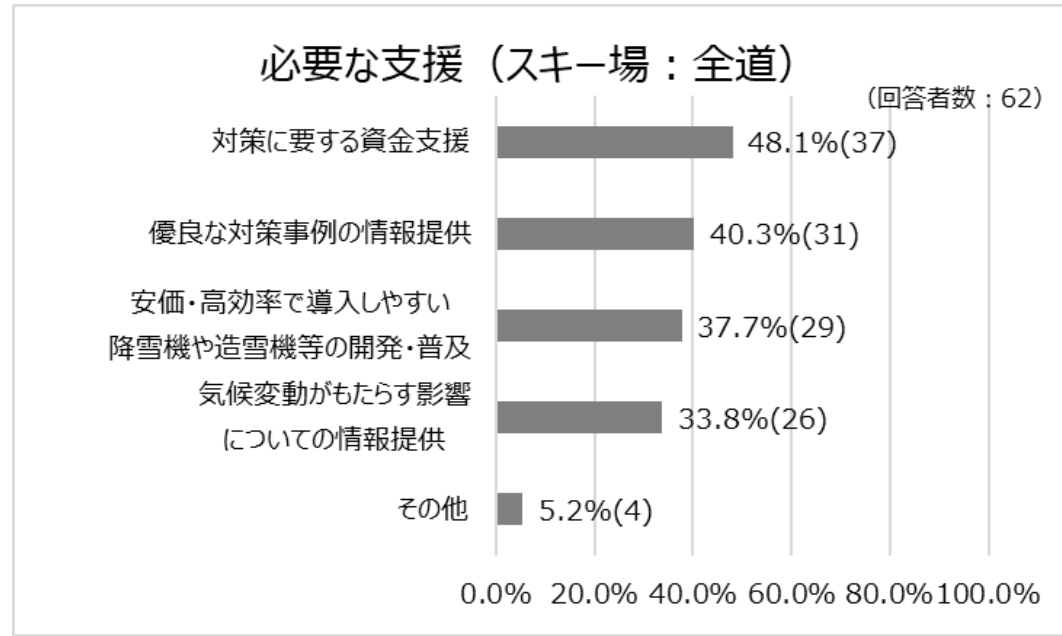


- (その他)
- ・斜面の芝生化
  - ・ゲレンデ整地・暗渠敷設
  - ・降雪機の増設
  - ・開設期間の変更
  - ・事業撤退・閉鎖

## 必要な支援

**設問** 今後、気候変動の影響に対して何らかの対策を検討・実施しようとする場合、どのような支援が必要ですか。

**結果** 「対策に要する資金支援」が最も多かったが、どの選択肢も平均的に半数前後の回答者が選択した。



- (その他 (抜粋))
- ・長期的なスキー場エリアの温暖化の影響による予測の情報
  - ・冬季（スキー）以外の活用方法事例の情報提供